

小正月の音鳴り響く

町内各地区で「どんどや」



1月13日に行われたどんどや(煙中)

1月7日から15日にかけて小正月の行事である「どんどや」が町内各地区で行われました。日曜日ということもあってか1月13日に多くの地区で行われ、訪れた人は、力強く燃え上がるどんどやの炎を見上げていました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、どんどやは悪天候をもものともせず、空に向かって

真つ赤な炎を伸ばし、灰をまき上げました。「ボン、ボン」と竹がはじける大きな音が山あいにはびこり、

「おー」という歓声が沸きました。

火が落ちて着くと、訪れた人たちは、かつぽ酒を飲み、焼けたもちに白い息を吹きかけながら、今年1年間の無病息災を祈願していました。

力を合わせ厄担う

寺迫地区で籠に担いで厄払い神事

寺迫地区に伝わる伝統行事に、その年に^{やく}厄入りする男性を籠^{かご}に担いで、えんま堂から木山神宮までを往復する厄払い神事があります。

今年も1月13日、厄入りした豊島利春さん^{とよしまとしはる}を、前後2人が交代しながら往復約2km担ぎました。

寺迫の若い男性がみんなで力を合わせて担ぐことにより、厄をみんなで^{にな}担うという気持ちが込められている反面、途中で決して地面に下してはいけないという習わしがあります。

今回も無事に担ぎ通し、1年間の無病息災を祈願しました。担がれた豊島さんは「籠に揺られるのは何とも言えない気分。感謝の気持ちを忘れず1年間過ごしたい」と話していました。



籠に担がれ神事に向かう豊島さんと担ぎ手たち



表彰状を手にする馬場さん

長年の活動に表彰状

町身障連馬場孝会長に更生援護功労者表彰

長年にわたり、身体障がい者や知的障がい者の更生援護に尽力し、その功績が顕著であったとして12月6日、町身障連会長の馬場孝さん(市ノ後団地)が、厚生労働大臣から更生援護功労者表彰を受けました。

馬場さんは、平成9年4月から身体障がい者相談員として地域障がい者の相談や支援を行う一方で、町身体障害者福祉協会会長、県身体障害者福祉団体連合会の副会長などを務めてきました。

「受賞は多くの皆さんが支援してくれたおかげ」と馬場さん。「これからも地道に困った人を手助けしていきたい」と抱負を語りました。